

「医療 DX における令和 6 年度診療報酬改定の振返り」

一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会

医事コンピュータ部会

はじめに

本調査研究は、令和 6 年度診療報酬改定の実態を分析し、今後の診療報酬改定に対する具体的な提言を行うことを目的としている。

令和 6 年度診療報酬改定は、「診療報酬改定DX」の一環として、施行日が従来の 4 月 1 日から 6 月 1 日へ 2 か月延期された。この変更は、医療機関やシステムベンダの業務負担を軽減し、業務の効率化を図る狙いがある。また、今回の改定は、診療報酬、介護報酬、障害福祉サービス報酬の三つが同時に改定される「トリプル改定」として行われ、改定対応作業における環境条件としてその背景がある。

アンケートの実施

今回の調査研究にあたり、JAHIS（保健医療福祉情報システム工業会）では、会員を中心とするシステムベンダ管理者・作業者を対象にアンケートを実施した。アンケートには、41 項目の設問を設定しており、593 件の有効回答があった。

報告書内容の概略

本調査研究の報告書は、第 1 章：令和 6 年度診療報酬改定の背景、第 2 章：令和 6 年度診療報酬改定の実態調査（アンケート）、第 3 章：次回以降の診療報酬改定への提言で構成される。

第 1 章：令和 6 年度診療報酬改定の背景では、調査対象となる当該診療報酬改定について、医療DX政策の位置付け、改定内容の概要を解説する。

1. 医療 DX については、令和 4 年に提言された「医療 DX 令和ビジョン 2030」により、医療情報活用の根本的な見直しを図る取り組みが進められている。「全国医療情報プラットフォーム」の構築や、「診療報酬改定 DX」の導入がその主な柱で、政府はデジタル化を通じたコスト低減と業務効率化を目指している。具体的なプランでは、診療報酬情報のデジタル化や共通算定モジュールの導入が進められ、システムエンジニアの有効活用を図るとされる。

2. 今回改定は、医師や看護職員の賃上げを目的とした新しい評価「第 14 部『O その他』」の新設や、医療情報の取得・活用を後押しする「医療 DX 推進体制整備加算」の新設など、医療 DX に関連した評価が注目される。また、生活習慣病や疾患別リハビリテーションの評価が見直され、医療機関ではシステム対応が求められている。さらに、長期収載品に関する保険給付の見直しやコロナ特例の廃止も重要な変更点である。
3. 令和 6 年度の改定では、これまでと比較して改定規模が大きく、改定箇所の増加が示されている。これは、過去の改定よりも、改定資料のページ数が増加していることから伺え、平成 26 年度に比べて「個別改定項目について」の資料ページ数が約 2.85 倍に増加している。
4. 施行時期と言う点では、診療報酬改定が「2か月遅れ」とする主たる変更に対して、薬価改定が4月施行・介護報酬改定が4月および6月施行になり、二重の対応と言う点で、結果的に医療機関・ベンダにおいて作業負担が大きいものとなった。

第2章：令和 6 年度診療報酬改定に関する実態調査（アンケート）をもとに、改定が実際にベンダに与えた影響とその分析を行った。

1. 改定の規模と影響

令和 6 年度診療報酬改定の規模は例年に比べて大きかったとする回答が多数を占めた。回答者の約 70%が規模と工数の増加を感じており、特に新たな診療報酬区分や点数の導入が、システム改修を伴う大きな要因として挙げられた。

2. 作業負担と労働環境

「2 か月後ろ倒し」による作業負担軽減については、肯定的に捉えている一方で、実際には労働時間や心理的負担が減らなかったとする意見も多かった。具体的には、残業時間の増加や休日出勤の必要性が削減されなかったという指摘があり、日程的な余裕が十分に活用されていないとの評価になる。

3. 作業量とタイムスケジュール

特に今年度の改定では、基本マスターの公表が後ろ倒しになったことでリリース回数が増加したことが指摘された。これによって、改定対応作業のための作業スケジュールが非常にタイトなものになり、計画立案や実作業にズレが生じたことが明らかとなった。

4. 情報提供の遅延とその影響

ベンダは、改定に関する政府からの情報提供の遅さに不満を感じており、それが作業のスケジュールに悪影響を及ぼしていると答えている。特に疑義解釈やコメント関連テーブルの公開時期が予想外に遅れたことは、作業調整の大きな障害となった。

5. 改定作業の合理化と効率化

興味深いことに、効率の観点から「後ろ倒し」の施策が一定程度評価されていることも示された。特に施策の意義については理解されており、特定の条件下では効果的に活用できる可能性があることが示唆された。次回以降の改定では、より柔軟で効率的な方法を模索する動機に繋がるだろう。

6. 総合評価と次のアクション

アンケート結果を踏まえると、令和 6 年度の診療報酬改定はその規模と変更内容において非常に影響が大きく、その影響に対応するためにはベンダの対応作業環境においてさらなる改善の余地があることが示唆された。次回以降の改定においては、今回の教訓を活かして、より計画的な情報共有と実務的な対応策の整備が重要となるであろう。

第3章: 令和 6 年度の改定は、施行日を 6 月 1 日に後ろ倒しすることで、業務負担の平準化を図る試みであったが、実際の効果は限定的であった。その結果を踏まえ、改定の理想形を追求するための具体的な提案を示す。

1. マスタの早期公表

改定に関連する膨大な情報の中で、特に基本マスターやコメント関連テーブルの早期公表が重視される。今回の調査で明らかになったのは、これらの情報提供が遅れることで、ベンダが事前準備を整えるには、十分な時間を得られなかったことである。早期の正確な公表は、作業効率と品質を高めるために不可欠である。

2. 行政との連携強化

行政側との連携を強化することで、情報の透明性と一貫性を確保し、業界全体としての対応力を向上させる。情報提供のプロセスをより迅速かつ明確にするため、定期的な意見交換やフィードバックの機会を増やし、双方向のコミュニケーションを促進する。

3. 薬価改定との調整

薬価改定と診療報酬改定のタイミングを調整し、ベンダが両方の改定対応における負担を軽減することが求められる。これによって、リリース回数の増加を抑制し、計画的で無駄のない作業が可能になる。

4. 労働環境の改善

アンケート結果からも明らかになったように、労働環境の改善は大きな課題である。ベンダの作業負担を軽減し、残業時間や休日出勤を削減するためには、十分な計画立てや効率化が必要とされる。施行時期の後ろ倒しは時間の都合を一部改善するが、それのみで解決できる問題ではない。

5. 施行時期を2か月後ろ倒しにした場合の「理想形」

診療報酬改定施行の「2か月後ろ倒し」にすることで得られる時間を有効に活用するためには、3月から4月にかけて必要なマスターが集中的に公表されることが前提である。早期に情報を取得し具体的スケジュールを確定することで、5月から6月にかけての計画的なリリースが可能となる。次期改定を見据えた「2か月後ろ倒しの理想形」では、ベースとなる公開情報時期を従来通りとして、2回のリリースを想定する。マスター情報の大部分を早期に公開し、特に労災診療費関連の情報・マスター類は3月下旬に提供し、5月までに品質を高めることが求められる。このように、事前のスケジュール調整と情報公開の早期化を図ることにより、効率的な改修作業とシステムエンジニアの有効活用が期待できる。事前アナウンスと更新精度の向上も含めて、品質の高いリリースが可能となる。

本文では、2か月後ろ倒しの理想形として、“目指すべきスケジュール”を示した。

おわりに

アンケート結果は、ベンダの率直な意見を反映しており、令和6年度改定の振返りとして重要である。全41問のアンケート全てを詳細に網羅できなかったが、ベンダの見解を最大限反映したものと考えている。未分析の回答も含め、JAHISの言う「診療報酬DX」の進展に向けて、今後の研究でこれらを再検討し、提言に役立てる予定である。

令和6年度改定における「2か月後ろ倒し」は、関係者全員にとって、初めての対応であり、特に4月~5月の期間の使い方に対しては無計画・無整合であったと思われる。次回以降

は、政策的に確保したこの時間を関係者間でどのように使うかを事前に調整、整合した上で計画的な対応が望まれる。

JAHISとしては、今後も時宜に適ったテーマで調査研究を実施し、「診療報酬改定DX」のみならず、診療報酬の算定や請求等の最適化に幅広く貢献していきたい。

以上